

病害虫発生予察注意報(第1号)

令和3年4月12日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：カブラヤガ

作物名：野菜類、花き類

1 発生地域：県内全域

2 発生量：多

3 注意報発令の根拠

(1) 当センター生産環境部（平塚市）および三浦半島地区事務所研究課（三浦市）が設置しているカブラヤガのフェロモントラップへの雄成虫誘殺数が、3月に入ってから急激に増加し、平年値をかなり上回っている（第1図・第2図）。3月の総誘殺数は、平塚市では2001年以降、三浦市でも2009年以降過去最高値である。

(2) 向こう1か月の気象予報によると、気温は平年並か高いと予想され、次世代幼虫の発生に好適な条件が続くと予想される。

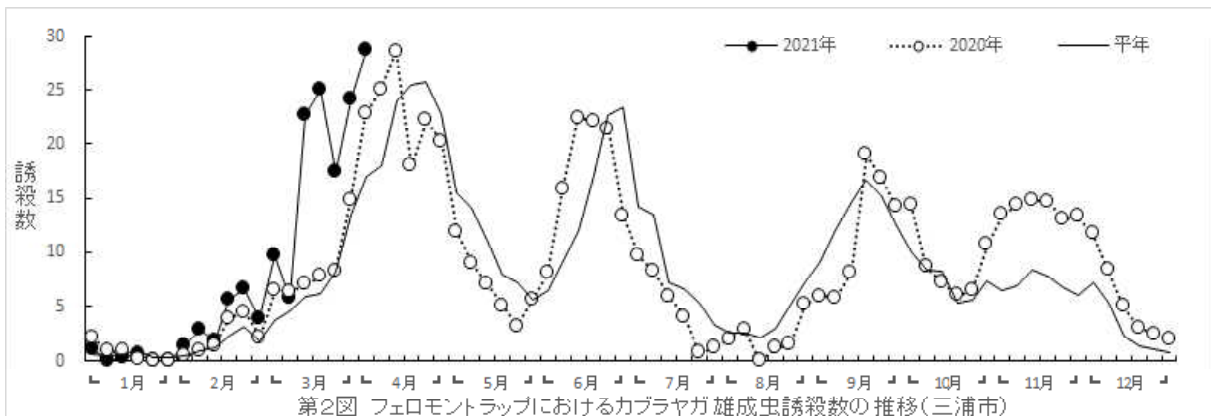
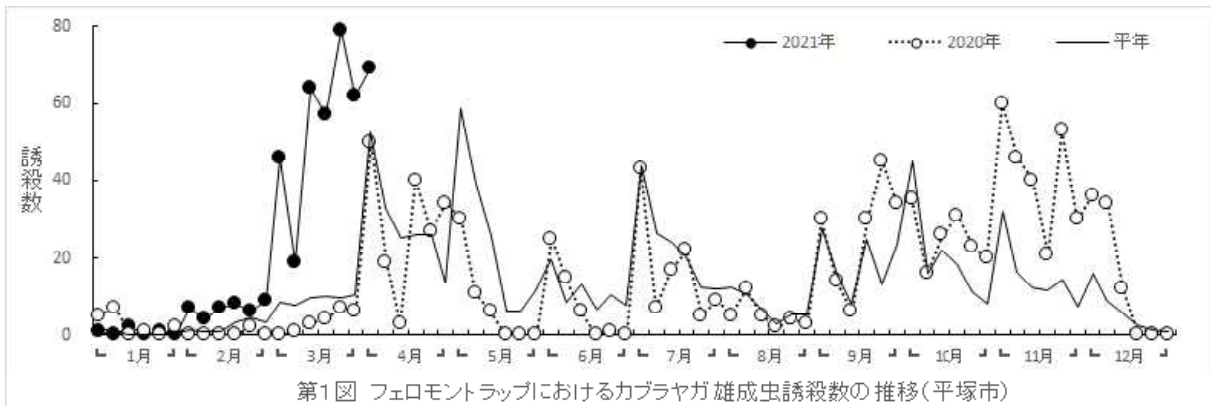




写真1 カブラヤガ成虫



写真2 カブラヤガ終齢幼虫



写真3 ネキリムシによるネギの被害

4 被害と生態

中齢～老齢幼虫で越冬し、春に蛹化、羽化する。成虫は年に4回程度発生する。卵は雑草や作物の地際部に産み付けられる。若齢幼虫は雑草や作物の下葉の裏などに潜んで食害するが、摂食量が少ないため実害は少ない。中齢以降は昼間土の中に潜り、夜間に這い出して来て、茎や株元をかじったり切断する被害が生じる。このためネキリムシと呼ばれる。

5 防除対策

- (1) は種時、出芽時、定植時などに土壌施用剤、育苗期後半～定植当日に灌注処理剤、定植後に食餌誘引剤（ベイト剤）などを施用する。カブラヤガ（ネキリムシ類）に適用のある防除薬剤例は第1表のとおり。農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守すること。

第1表 令和3年度版病害虫雑草防除指導指針でネキリムシ類に適用のある掲載農薬

土壌施用剤	ダイアジノン粒剤5(1B) ダントツ粒剤(4A)	カルホス微粒剤F(1B) プリロッソ粒剤(28)	フォース粒剤(3A) ミネクトデュオ粒剤(28+4A)
灌注剤	ベリマークSC(28)	ジュリボフロアブル(28+4A)	
ベイト剤	デナポン5%ベイト(1A) アクセルベイト(22B)	ネキリエースK(1B)	ガードベイトA(3A)

* () 内はIRACコード

- (2) 作付けを休んでいた休耕地などで発生が多くなるので、作付け前に耕起を行い、ほ場環境を改善する。
- (3) 周辺の雑草から侵入し被害が出ることがあるので、除草を徹底する。

神 奈 川 県 農 業 技 術 セ ン タ ー
病 害 虫 防 除 部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333

FAX 0463-59-7411

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>